



国立研究 開発法人 海上技術安全研究所 国際会議報告

会 議： 国際海事機関（IMO）第3回汚染防止・対応小委員会（PPR 3）

開催場所： 国際海事機関（IMO）、英国、ロンドン

会議期間： 2016年2月15日～2月19日

参加国： 国及び地域：72、政府間機構：5、国際機関：35

海技研からの参加者： 太田 進：国際連携センター長

高橋千織：環境・動力系環境分析研究グループ長

概要

今次会合において小委員会は、

- 日本のブラックカーボン（BC）計測結果の報告に基づき、BC計測法の検討にはさらなる計測を実施する必要があることに合意し、有志国によるBC計測の実施を促しました。
- 雪氷状況下における油流出時の対応に係る指針案に合意しました。
- 硫黄分の評価のための船上における燃料油サンプリングに関するガイドライン案に合意しました。

主な貢献

太田及び高橋は、国際海運からのブラックカーボン排出（議題8）の審議を担当し、この議題に係る作業部会にも参画し、審議に貢献しました。また、高橋は船用エンジンの排ガス中のブラックカーボン濃度計測に係る当所の研究成果についてプレゼンテーションを実施し、太田はこれを補佐しました。



主な審議結果

ここでは、当所職員が審議を担当した議題についてのみ報告いたします。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告をご参照ください。

1 国際海運からのブラックカーボン排出

2015年1月に開催されたPPR2及び同年5月に開催されたMEPC68において合意されたブラックカーボンの定義に基づき、現在、IMOでは4つの計測法（フィルタスモークメータ：FSN、光音響法：PAS、多角度吸光度

法：MAAP、レーザー誘導発光法：LII）をブラックカーボン計測法として候補に挙げ、検討しています。

当所では世界に先行してこれらの計測法を用いた同時計測を様々な条件下で行い、計測法の精度や再現性、また実船計測の実施可能性についても研究しています。

日本は今次会合に、当所が実施した船用ディーゼルエンジン排ガス中のブラックカーボンの計測結果を提出し、適切なブラックカーボン計測法の特定には、今後より多くの



データ蓄積が必要であることを指摘しました。この結果、多くの参加国がブラックカーボン計測の困難さについて認識を共有しました。

また、ドイツ及び EUROMOT の提案に基づき、計測報告用プロトコルが作成され、可能な限りこのプロトコルに記載された項目に沿って報告することが推奨されました。

その上で小委員会は、興味のある国は計測を実施し PPR 4 へ報告するよう要請しました。

2 次回会合

次回の汚染防止・対応小委員会（PPR 4）は、2017年1月16日から20日まで、ロンドンのIMO本部で開催される予定です。